

第 40 号

発行 世田谷区町会総連合会
世田谷区若林 4-31-9
ポライト第2ビル202
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 斎藤重男
編集情報誌編集委員会
編集委員長 横山昭夫

せたがや 町総連だより

あけましておめでとうございます



会員の皆様には輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃から、世田谷区町会総連合会の事業につきまして、格別のご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。昨年開催されました総会におきまして、宇田川会長の後任として会長の職に就くことになりました。

さて昨今、隣近所のつながりが希薄になってきていると言われておりますが、この様な時こそ町会・自治会の果た

世田谷区町会総連合会 会長

斎藤重男

す役割が益々大きくなってきていると実感しています。当会としても、日頃から組織の体制づくりの大切さを痛感しております。

町会・自治会では会員相互で助け合い、親睦を図りながら「安全で住みよいまちづくり」を目指して活動を継続していく必要があります。

当会では、会員皆様のご協力のもと、これまでに町会・自治会の加入促進に向けての宣言を採択して町会・自治会の交流の実施や組織の活性化チラシの作成と配布、町会総連合会のホームページの公開など、様々な事業の取り組みを

世田谷区長

保坂展人

進めて参りました。今後も世田谷区と協働して町会・自治会への加入促進の取り組みや更なる組織の活性化にむけた事業を継続して参ります。

地域の多くの方々と「知り合い」「ふれあい」「支えあい」の三つの「あい」をスローガンに進めて参ります。

結びに、前任の宇田川会長の意思を引き継ぎ、当会の会長として、会員の皆様のご協力をいただきながら会の発展に尽くしていく所存ですので本年もよろしくお願いいたします。



町会・自治会の皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は区政の推進にあたり、多大なるご理解、ご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

ただ今、世田谷区では、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「世田谷型地域包括ケア」の構築をめざしまして「出張所・まち

づくりセンター」「あんしんすこやかセンター」「社会福祉協議会」を一体的に配置する「身近な福祉の相談窓口」の整備に取り組んでおります。昨年十月には、砧地区でモデル実施、今年度は池尻、松沢、用賀、上北沢の四地区で、そして、平成二十八年まで三年間で全ての地区で実施してまいります。

また、いつ起きてもおかしくないと言われております「東京直下型地震」等に備えるために「発災後七十二時間は地区の力で乗り切る」をス

ローガンに「防災塾」を実施しておりますが、今後、全ての地区で地区住民の手による「地区防災計画」の策定を目指してまいります。

このような施策を進めるために、町会・自治会の皆様のご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。結びに、世田谷区町会総連合会の益々のご発展と、会員の皆様にとりまして健康で幸多き一年になりますことを心からお祈り申し上げます。新春のご挨拶とさせていただきます。

目次

新年のご挨拶	1	
地域情報		
世田谷地域	我が町のまちづくり	2
北沢地域	月一回発行の町会だよりが231号に	3
玉川地域	七十二時間を守り抜く	4
砧地域	おらが村宇奈根・夢プロジェクトの実現	6
烏山地域	烏山中町会と地域とほんの少し催し紹介	7

町総連ニュース	8
編集後記	8

世田谷区町会総連合会のホームページ

※QRコード

世田谷区町会 検索



バーコードの一種で、携帯電話で撮影して、簡単にホームページを見ることができます。

地域情報

世田谷地域

我が町のまちづくり

宮坂三丁目町会 会長 松原市郎

わが宮坂三丁目町会は、小田急線「経堂駅」の北側に位置し小田急線高架下のテラスガーデンより「すらん通り商店街」「恵泉通り中央会」「経堂小学校三ツ和会商店会」の三商店会の右側沿いに経堂小学校までの赤堤通りに囲まれた地域です。一部桜上水一丁目に飛び地があります。

町会の面積は〇・二三八平方キロで、世帯数は、平成二十六年十月現在二、六三四世帯で四、五三一人の方がお住まいです。

町会の特徴は、永年お住まいの世帯が多く世代交代が進行中の住宅環境と同時に小田急線の経堂旧車両基地跡が、平成二十年にテラ

スガーデンとしてオープンし、スポーツクラブ、経堂テラスガーデンマンションとして大々的に開発され、「歩きたくなるまち、経堂」をコンセプトに近代的に一大変身した環境が同居しています。

町内には、都立松沢病院を水源とし池尻までの四・三キロ流れていた北沢川は、ユリの木遊歩道に整備され緑道として変身し皆さんの散歩道になっています。又、昭和の初期に四谷より移転してきた四谷軒

牧場は、搾りたての牛乳を販売しており大変好評で、近所は雑木林に囲まれてカブトムシやクワガタが沢山とれて人気スポットでありましたが、昭和六十年代に

入ると宅地開発が盛んになり、環境の変化に伴い牧場は閉鎖され大型マンションに変貌してしまいました。

この様に町内は、大型の商業施設があり、大型マンションあり、従来の商店街が三つあり、昔より住まわれている住宅街ありといろいろな顔を持つ環境の町会です。

一、現在町会で一番力を入れている案件は、

防災力の強化

住んでいる皆さんが「安全」「安心」「住みやすい」町と実感して頂く事が、町会を良くすると同時に活気ある町に変貌させる力となると考えてお

ります。世田谷区役所経堂出張所をはじめ消防団・三商店会・経堂北町会（三商店会通りの向かい側町会）と合同で年二回防災訓練を行っています。

この訓練には、区立経堂小学校のPTAをはじめおやじの会・町民の皆様参加を頂いて実施しています。

今後、近年中に必ず発生が想定されている東京直下型地震・南海海地震に対して、町内の災害を最小限に食い止めると共に、災害情報の正しい把握・速やかな復旧活動と一連の行動訓練が全てであり、皆で力を合わせて行動する訓練を定期的におこなっております。

発災から七十二時間は町会の力で全ての災害に対応する事が求められていますので、この対応力を訓練にて一日でも早く確立出来る様励んでおります。

二、「子供は町会の宝」との合言葉のもと

町内では、区立経堂小学校との普段からの繋がりを大事にしています。

新学期が始まれば、「通学路の安全見守り」「夏休みみみラジオ体操」「夏休み子どもまつり」等の行事に参加して子供達の成長を見守っております。しかし、下校時のトラブルがあちこちで発生している今日この頃、この下校時見守りをどのように対応すればよいか町会の課題となっております。



避難所開設訓練



夏季ラジオ体操

北沢地域

月一回発行の町会だよりが231号に

下代田東町会 会長 宮木清子

三、「心肺蘇生」の習得普及

町会の皆さん全員が心肺蘇生を経験して、万一の緊急時において慌てず一人でも大事な命を守る様に年二回の講習会を実施しており、平成二十四年に世田谷消防署長より町会が表彰されました。

四年前に発生した東日本大震災において、町民の皆様より生活支援物資の寄附をトラック一杯頂き、直接その物資を宮城県名取市の被災された皆さんにお届けして現地の皆様より大変感謝されました。

町会として、隣の人の顔を知るのみならず町会の皆さんが顔なじみになって頂ける様に、区役所経堂出張所管内八町会が協力して行う他町会の見所を回るスタンプラリーに参加しています。

当町会は、町会長が旗を持ち先頭を歩いて、参加者は懇談しながら他町会の見所を見て廻り、子供は畑でダイコン掘りを体験するなど、知らない方と親しく話をされ絆を深める良い機会と捉えております。今後とも安全・安心なまちづくりに町会全体で努力いたします。

池尻の一部(旧下代田町地区)と代沢一丁目を合わせた二千世帯が下代田東町会です。

町会の中央部に区立富士中学校と駒場学園高校が隣接し、その両校に接しているのが下代田児童遊園で、春は桜まつり、夏は納涼祭と八月のラジオ体操(子ども五十名大人四十名参加)を行います。

秋は代田八幡宮の大祭で、大きな万燈神輿をかつき、町内淡島通りを往復し、児童遊園横の広場が終点です。別名富士中公園と言ひ、子ども達の遊び場であり催し物の中心地です。ここでやることは逐一町会だよりに書くこととなります。

私は町会長に就任して十年ですが一年置きに

「お花見ウォーク」で大迂行つて帰り、児童遊園で炊き出しをした五日御飯をいただきます。防

災部長の口癖「一〇〇名参加！」を会報に書いたから、ジャスト一〇〇名参加でした。

東大からの帰り道、防犯パトロール募集の話になり、その時の防犯部員は既に四十名

間助成金をいただき、町

私の中の青パトにかかわる部員は十二名です。二人一組二日間で交代し、毎日目立つチョッキを着て朝夕パトロールしていただいています。すごい町会だと内心感心しています。

世田谷区の絆再生支援事業に応募したのが平成十七年、その次から八年の生徒で活動するのにも加わりました。

花の世話をしながら校舎裏の空地を耕し、三月にジャガイモを植え夏休みに入る前に収穫し、収穫祭で生徒と喜びを分かち合います。今はブロッコリと白菜を植えています。生徒の参加者は八十五名と多く、学年別当番にしております。

今年入った女の子が土をいじって「癒された！」の一人言に驚き嬉しくもありました。

町会では平成九年から、ゴミ減量リサイクルバザーを春と秋の年二回やっておりその売り上げと、資源回収を毎週火曜日にやっており両方で約一〇〇万円の収益を得ております。

平成十八年子育てサロン「ピッコロ」を第

二水曜日午前中開設し乳幼児親子が三十組位参加。五年遅れで大人のサロン「ピンテージ」を第三火曜日午後開場、飲み物各自持参で、手芸をする人、おしゃべり屋、聞く専門、あやとりをする人、一人では無く好き勝手です。

平成二十年、日舞の先生から子ども歌舞伎を立ち上げたいと相談を受け是非にと即答。NP

〇法人の協力もあり、教育委員会の後援を得て現在二十名の子役者が、三月の卒業公演に向け頑張っています。

町会だよりは、町連役員会の日、一夜書きで翌朝代沢まちづくりセンターで校正印刷してもらいます。

ワープロもパソコンもない頃から手書きだったので、その延長で汚い字で書いているのに高齢者の方からお礼を言われ、恐縮と感謝で一杯です。

(10/29記)



「ゴミ減量リサイクルバザー」を終え、打ち上げ反省会

七十二時間を守り抜く

玉川地域

駒沢三丁目町会 会長 根岸久芳

駒沢三丁目町会は東急田園都市線の駒沢大学駅と桜新町のほぼ中間に位置し、町会中央には区立緑泉公園があります。公園を取り囲むように家並が続く閑静な街で、世帯数は七百五十と比較的小規模な

下代町東町会の人口減少

昭和24年	4,322	4,322
昭和25年	4,222	4,222
昭和26年	3,627	1,985
昭和27年	6,954	3,73

秋の例大祭の会計報告と今後
平成20年からの本町会組織の明細を
見せました。昭和27年以降の増加は
昭和20年以降の増加の約半分であり
昭和27年以降の増加の約半分であり
昭和27年以降の増加の約半分であり
昭和27年以降の増加の約半分であり

- 1/15 消防団 正副班長会 毎月27日
● 1/16 代町児童館 毎月28日
● 1/17 消防団 毎月29日
● 1/18 消防団 毎月30日
● 1/19 消防団 毎月31日
● 1/20 消防団 毎月1日
● 1/21 消防団 毎月2日
● 1/22 消防団 毎月3日
● 1/23 消防団 毎月4日
● 1/24 消防団 毎月5日
● 1/25 消防団 毎月6日
● 1/26 消防団 毎月7日
● 1/27 消防団 毎月8日
● 1/28 消防団 毎月9日
● 1/29 消防団 毎月10日
● 1/30 消防団 毎月11日
● 1/31 消防団 毎月12日

下代町東町会だより

町会長 宮本清子
副会長 三浦三子
事務局長 三浦三子

10/19(日) 富士山登山 参加者 51名
10/20(月) 富士山登山 参加者 51名
10/21(火) 富士山登山 参加者 51名
10/22(水) 富士山登山 参加者 51名
10/23(木) 富士山登山 参加者 51名
10/24(金) 富士山登山 参加者 51名
10/25(土) 富士山登山 参加者 51名
10/26(日) 富士山登山 参加者 51名
10/27(月) 富士山登山 参加者 51名
10/28(火) 富士山登山 参加者 51名
10/29(水) 富士山登山 参加者 51名
10/30(木) 富士山登山 参加者 51名
10/31(金) 富士山登山 参加者 51名
11/1(土) 富士山登山 参加者 51名
11/2(日) 富士山登山 参加者 51名
11/3(月) 富士山登山 参加者 51名
11/4(火) 富士山登山 参加者 51名
11/5(水) 富士山登山 参加者 51名
11/6(木) 富士山登山 参加者 51名
11/7(金) 富士山登山 参加者 51名
11/8(土) 富士山登山 参加者 51名
11/9(日) 富士山登山 参加者 51名
11/10(月) 富士山登山 参加者 51名
11/11(火) 富士山登山 参加者 51名
11/12(水) 富士山登山 参加者 51名
11/13(木) 富士山登山 参加者 51名
11/14(金) 富士山登山 参加者 51名
11/15(土) 富士山登山 参加者 51名
11/16(日) 富士山登山 参加者 51名
11/17(月) 富士山登山 参加者 51名
11/18(火) 富士山登山 参加者 51名
11/19(水) 富士山登山 参加者 51名
11/20(木) 富士山登山 参加者 51名
11/21(金) 富士山登山 参加者 51名
11/22(土) 富士山登山 参加者 51名
11/23(日) 富士山登山 参加者 51名
11/24(月) 富士山登山 参加者 51名
11/25(火) 富士山登山 参加者 51名
11/26(水) 富士山登山 参加者 51名
11/27(木) 富士山登山 参加者 51名
11/28(金) 富士山登山 参加者 51名
11/29(土) 富士山登山 参加者 51名
11/30(日) 富士山登山 参加者 51名
12/1(月) 富士山登山 参加者 51名
12/2(火) 富士山登山 参加者 51名
12/3(水) 富士山登山 参加者 51名
12/4(木) 富士山登山 参加者 51名
12/5(金) 富士山登山 参加者 51名
12/6(土) 富士山登山 参加者 51名
12/7(日) 富士山登山 参加者 51名
12/8(月) 富士山登山 参加者 51名
12/9(火) 富士山登山 参加者 51名
12/10(水) 富士山登山 参加者 51名
12/11(木) 富士山登山 参加者 51名
12/12(金) 富士山登山 参加者 51名
12/13(土) 富士山登山 参加者 51名
12/14(日) 富士山登山 参加者 51名
12/15(月) 富士山登山 参加者 51名
12/16(火) 富士山登山 参加者 51名
12/17(水) 富士山登山 参加者 51名
12/18(木) 富士山登山 参加者 51名
12/19(金) 富士山登山 参加者 51名
12/20(土) 富士山登山 参加者 51名
12/21(日) 富士山登山 参加者 51名
12/22(月) 富士山登山 参加者 51名
12/23(火) 富士山登山 参加者 51名
12/24(水) 富士山登山 参加者 51名
12/25(木) 富士山登山 参加者 51名
12/26(金) 富士山登山 参加者 51名
12/27(土) 富士山登山 参加者 51名
12/28(日) 富士山登山 参加者 51名
12/29(月) 富士山登山 参加者 51名
12/30(火) 富士山登山 参加者 51名
12/31(水) 富士山登山 参加者 51名

町会です。

さて、必ず起こると報道されている東京直下型地震が懸念されています。もし大地震が起きたら市街地火災、建築物倒壊、道路損壊、崖崩れ、液状化、地域によっては津波など、多種多様な災害が広範囲に、しかも同時多発的に起こり、必ず人的・物的被害が発生するのが震災ではないでしょうか。

震災後、約三日間は公助に頼れないこの七十二時間が最も大切な時です。この時を住民がどのように自分・家族そして隣人の生命と財産を守り抜く活動に使うかによって、その被害規模は大きくかわると思います。

阪神淡路大震災の例でも震災後の被害は日頃、防災対策に熱心に取り組んだ地域程、被害が少なく、又、救出された人の約八割が近隣の人手で四十八時間以内に助け出されたと言われています。

たしかに避難所運営訓

練は必要不可欠であり続行する必要があります。しかし、それは震災後、命が助かった人達の話であって、まずその前に街を住民だけの力で守り抜くための備えと訓練、そして住民同士の協力体制作りこそが町会に課せられた責務だと考えています。

どちらの町会・自治会などでも創意工夫を凝らした防災への取り組みを行っていると思います。

駒沢三丁目町会でも、さまざまな取り組みを行なってきましたので、その主なものを紹介させて頂きま

まず最初に手掛けたのは十五年程前、町会保有のD級ポンプ用消防隊で当初隊員は十名で内九名が女性で、隊としての活動は皆無でした。そこで隊員の入れ替えと増員を行ない、現在隊員は十五名で、内五名が女性で全員に隊員用ユニホームとヘルメットを貸与し、普通救命の資格を取らせています。そして毎月一

回のエンジン始動と隔月一回の放水訓練を実施しています。

次に十年程前、住宅用火災警報器を普及させるために町会独自で購入希望者を募り一括購入しました。取り付けできない家には町会役員が出向き、二年に亘り二回実施した結果、設置率は八十八%まで普及しました。この町会活動は住民

の防火防災への意識の高揚と、目を町会に向かせる手法の一つと考えています。

防災への本格的な備えは、阪神淡路大震災から得た教訓を生かして七年前から始めました。

まず手始めに町会防災倉庫にある防災資機材で不足している物を調べ、十年計画で機材の充実を年々図る一方、災害時積立金規程を作り毎年積立を始めました。

次に東日本大震災から早や四年、世田谷区でも震度5弱の揺れを体感し、この時、町内の被害状況を調べるため一周した時、在

宅者はほとんど高齢者が乳飲み子を抱えた母親だけでした。平日の昼間、大地震が起きたら災害対応要員に事欠く事態に、この要員不足を少しでも補なう目的で町内在住の中学生が主体の「Jr. PORT」(JUNIOR POWER RE

SCUE TEAM(ジュニアパワーレスキューチーム)の略)を立上げ現在隊員は十一名で、全員に隊員用ユニホームとヘルメットを貸与し、普通救命の資格を取らせています。

次に着手したのは同時多発火災への備えで三年程前から始めたスタンドパイプ、これを調べた結果、水

圧さえ落ちなければ女性でも取り扱いが容易で、メンテナンスフリーと判断し、毎年一組ずつ昨年三組目を購入しました。そして多発火災と通常火災にも役立つので分散設置しています。

同時期に手掛けたのは災害時要援護者の実態把握です。個人情報などの問題で実行できずジレンマに陥っ

ていましたが、東日本大震災で住民の意識が高まった時に自己申告方式で要援護者を募ったところ、かなりの反響があり、昨年三回目の自己申告で現在三十四名の登録者があります。登録者宅へは年二回町会役員が訪問しています。

住民の防災への意識・知識を高めるため自主防災訓練を緑泉公園で行なっています。以前は単独実施でしたが、前回から南側に隣接する町会と合同で、昨年秋季には西側に隣接する町会も含め三町会合同の防災訓練を実施しています。

防災活動の主なものについて記載させて頂きましたがこれだけやれば万全というのではないのが防災対策だと思えます。これから

も新たな減災対策に取り組み、震災後の七十二時間に備えたいと考えています。

砧 地域

おらが村宇奈根・夢プロジェクトの実現

宇奈根町会 会長 鈴木 勇

宇奈根の渡し一日

だけの大復活

一九一〇年多摩川の洪水により宇奈根全域が滞水し、現在の川崎市と世田谷区に宇奈根が分断されました。

川崎市の宇奈根に畑があり不便なので渡し場が出来て大変喜ばれました。

作業が楽になり両宇奈根の人々とお祭りなどで交流がありました。しかし時代と共に、渡し場はなくなり交流がなくなりましたが

昨年九月二十三日に「宇奈根の渡し」が六十四年ぶりに一日だけの大復活をしました。これは喜多見児童館館長始め、スタッフそして、二十五人の子供たちの協力により実現しました。四月頃より、夢プロジェクトの実現に向けて、鈴木光吉さんと、子供たちで作った、夢葉丸が九月二十三日

に大復活しました。秋晴の良い天気にも恵まれ、多摩川の水もおだやかで実行出来ました。オープニングに世田谷区の保坂区長と私が、光吉号に乗船して、高津市福田市長と川崎宇奈根河原町会長を、対岸へ迎えに行き、川崎市宇奈根の皆さんと六十四年ぶりに再会しました。今後とも交流をして行きたいと思えます。

この日、記念碑の除幕式が行われ、保坂区長、福田市長、河原町会長の挨拶がありました。その後、子供たちが光吉号と、夢葉丸に乗って楽しんでいました。喜多見児童館のスタッフ、地域と子供たちのメンバーの皆さん、夢プロジェクトに御協力して頂きありがとうございます。



宇奈根の渡し大復活

宇奈根町会紹介

一九四六年に町会が廃止になり、GHQにより、民主的組織になって一九五二年町会が復活しました。一九五二年頃は、畑と田んぼが多く富士山も家からよく見えました。現在は多摩川まで行かないと見えません。当時一九二〇年第一回国勢調査で人口が三百五十六人、六十八世帯でしたが現在は人口五〇〇〇人、二一〇〇世帯です。開発が進み畑がどんどん

無くなっている現在です。

盆踊り大会

毎年七月の夏休みの初日に盆おどりを実施します。六月より子供タイコの練習が始まり、盆おどりの当日は、子供タイコから始まり、子供タイコから始まります。スイカ割大会では大きなスイカを持って帰る子供たち、大人も子供も楽しんで盆おどりは大にぎわいです。



盆踊り大会

ンプ操法、トイレの組立、消火器の使い方、AEDの操作や起震車を体験してもらっています。参加者は地域の人々、子供会のお父さん、お母さん、老人ホームの皆さんなど総人数は二百名でした。そして消防団と安協の協力により実施されました。町会では毎年消火器を町内に設置し現在十五本設置しています。初期消火の重要性を思い今後も続けてまいります。

防犯パトロール

町会では、年数回実施します。町内全域を、青パトと役員が三班に分かれて歩いて、マイクで近隣の皆さんに注意を促します。振り込め詐欺や空巢の被害にあわないように呼びかけました。ワンワンパトロールの皆さんも協力してもらっています。日頃より犯罪のなごいままちづくりの心がけて安心して、住み良い宇奈根にしていきたいと思えます。

防災訓練

十月二十六日九時〜十二時まで防災訓練を実施しました。宇奈根氷川神社境内で行い、炊き出し、D級ボ

烏山地域

烏山中町会と地域とほんの少し催し紹介

なかちようかい

烏山中町会 総務部長

高橋 房枝

烏山中町会は、世田谷区の北西部に位置し、南烏山二・四・五丁目、北烏山二丁目から四丁目と五丁目と六丁目の一部に亘る縦長の区域です。この区域の中に烏山中町会、親和会、あやめ会、又集合住宅だけの自治会組織が七つあります。以前は自治会以外は、全体が烏山中町会だったとの事。又古くから住んでいる人々は中町を中宿と呼ぶ方もいます。京に都があった時、京から江戸に向かつて甲州街道に沿って、給田、烏山上宿、烏山中宿、烏山下宿と昔から呼んでいたそうです。忘れてはいけないのが烏山寺町です、上宿と中宿地域に二十六ものお寺があります。大正十二年の関東大震災後、復興事業としての区画整理によって、浅草、築地、麻布、芝あ

たりにあった寺や墓地がまとまって、烏山に移転し、こうして出来たのが烏山寺町です。烏山中町地域には、京王線、旧甲州街道、甲州街道、中央高速道路が区域の中を通っています。京王線は開かずの踏切でその解消に向けて工事が行われる予定との事ですが、いつになるのか待ちどおしいかぎりです。又、昭和三十年、四十年頃に建てられた集合住宅団地では建て替予定がずい分とあります。一団地は建て替が終わりました。残りの団地も東日本大震災後、耐震性の問題で建て替が急がれているようです。昔は子どもも多くともにぎやかでした。今は公園も遊ぶ子どもも少なく、閑散としています。建て替にもない大きな道路計画もあるとの事で、その計画

にともない引越しをよぎなくされる人達も多数いるとの事。街の中も、町会の中も、地域の中もおちつかないのが現状です。中町会地区の中には、烏山神社があります。古くは白山神社といい、鎌倉時代に祀られたといえます。昭和三十七年に天神社、神明社、稲荷社が合祀され烏山神社と改称されました。千歳烏山駅前前の商業地のにぎわい、一歩入って住宅地の街なみ、又、烏山寺町のおちついた、たたずまい、このような地域の中にあるのが烏山中町会です。

今年度も、ラジオ体操を実施しました。学校が夏休みに入ってからすぐの一週間と八月の終わりの一週間に行ないました。新和会、豊かな老後を築く会、みずとみどりの会、中町会とで費用を出し合い、参加賞を前期と後期に配りました。昔は休みに入ると、ラジオ体操は各地で行なわれていました。その内に、うるさいとか、朝早く迷惑とか言われて行なわれなくなっ

てしまいましたが、烏山北小学校の校庭が芝生の校庭になり、前校長先生の案で、ぜひ地域の皆様と一緒にラジオ体操を芝生の上で行いましょうと話があり、復活しました。学校の校内の鍵を預り、毎朝六時過ぎに行き二ヶ所の門の鍵を開けラジオを準備し待っています。早く来る子は、鍵を開けるのを待っている時もあります。お天気の良い時は子ども達、又、お父さん、お母さん、地域のおじいちゃん、おばあちゃん、たくさんの人達が来てくれました。出勤前のお父さんの姿もありました。多い時は二百八十名前後になった時もありました。芝生の上で早朝にラジオ体操をする事は、とても気持ちが良いです。又、指導をしてくれる方は以前は親子で来ていましたが、子どもが大きくなりましたが、一人でも来てくれます。この方がラジオ体操の指導員の資格まで取りました。これは、ほんのちよっぴりの紹介ですが、町会も、地域も皆で頑張っています。町会の加入も少なく高齢化も進んでいますが、もつともつと若い人達にも加入していただき町会が、地域が、活発になる事を望みます。



芝生の校庭でのラジオ体操

町総連ニュース

総会

▼平成26年6月26日

いて小松岑生理事(下馬二丁目北町会長)、西崎守理事(祖師谷住宅自治会長)、原田隆明会計(尾山台自治会長)が受賞されました。

第37回せたがやふるさと区民まつり

▼平成26年8月2日~3日

町会・自治会加入促進ポスターを掲示し、加入チラシやグッズを配布して広報活動を行いました。

▼平成26年10月1日

東京都功労者表彰

都庁において堀池有前常任理事(桜上水1丁目町会相談役)が受賞されました。

▼平成26年11月7日

秋の叙勲

後藤正三副会長(北沢三・四丁目西町会長)が東京プリンスホテルにおいて伝達式、皇居にて拝調。旭日単光章を受章されました。

表彰

▼平成26年6月19日

東京都町会連合会表彰

京王プラザホテルにお



各町会・自治会でイラストをご自由にご利用ください。

◎世田谷区町会連合会役員改選のお知らせ
平成26年6月26日に開催されました総会で、役員改選が承認されました。

役職	新役員	前役員
会長	齋藤重男	宇田川國一
副会長	根岸茂	後藤正三
	後藤正三	齋藤重男
	藤本秀雄	藤本秀雄
	杉田武信	杉田武信

◎情報誌編集委員会

▼平成26年10月9日

町総連だより第40号の編集方針等

▼平成26年11月28日

町総連だより原稿の確認読み合わせについて

▼平成26年12月18日

町総連だより原稿の校正について

◎鳥山住宅自治会が平成26年11月18日に町会総連合会より退会しました。

◎町総連情報誌編集委員会名簿

平成26年12月現在

役職名	氏名	所属町会・自治会名
委員長	横山昭夫	九品仏自治会
副委員長	堀江義之	若林町会
委員	吉岡靖之	藤自治会
	鮎川郁男	弦巻町会
	飯塚捷子	豪徳寺二丁目町会
	遠藤幸一	大原北町会
	汐見敏治	砧町町会
	本橋俊夫	粕谷会
	高橋和夫	鳥山下町会

編集後記

編集委員を引き受けて一年。新米会長は「町総連」のことも「だより」の事もほとんどわからない状態。一年を過ごしました。今、やっと編集委員が見えなければならぬ。町会からいただいた原稿の校正、編集をするのですが、どこの町会もおかされた場所こそ違えやっていると、安心のまちづくりの為、防災・防犯・人づくり・絆づくりで苦労しています。それを紙面を通じて皆様に伝え、それぞれの場で考える参考にしていただければと思います。なにせ発行部数が少なく、この町会でも配り方に苦慮しているようです。

町会運営の悩みを話し合える場づくりをこの編集会議の中から出来ればと夢のような事をつらつら思いながら40号の編集も無事終わり、皆様のお手元にお届けしたいと思えます。

編集委員 飯塚 捷子